

主な意見等の整理（第3回）

- 子供の声を聞きながら一緒に作っていく指導計画やカリキュラムの在り方とはどう
いうものかについて、幼児教育はしっかり取り組むことが重要。
- 質の向上を担保する仕組みとして、保育のプロセスの質評価の検討が必要。国研の
質評価スケールを園内・地域の研修で活用し、客観性を担保しながら実践につなげ
ていくことが重要になってくるのではないか。
- 3要領・指針の一本化を図っていくためには、まずはそれぞれに十分でない概念を
検討し、それぞれの要領・指針に入れていくことが必要。
- 指導要録については、幼保小の先生が語り合いながら一緒に作成したという事例も
ある。架け橋プログラムの中で、要録や要録では語り切れない子供の育ちを語りバ
トンを渡せていけるとよい。現在は、研修は夏休みに1回全体で行われていること
が多いが、どの時期にどういう形で行うことが子供たちにとって本当に意味がある
かについても検討が必要。
- 架け橋プログラムの中で、障害のある子供たちの架け橋をどう考えていくのが課
題。今後、3要領・指針に共生社会の視点を更に入れていくことが必要ではないか。
- 架け橋の研修において、具体的な研修をどう実現していくかが課題。継続性や連続
性、具体性、実効性が生まれるようなことを協働的・往還的に行うという視点が重
要。
- 地域のネットワークを通して質を高めることがとても重要。その中でもコーディネー
ター・ファシリテーターの役割や、その際に実践を肯定したり、その良さを共に味わった
り広げていくという姿勢が重要。園長レベルだけでなく中堅層レベルにおいても、
園内・他園のコーディネーター・ファシリテーターとなれるよう、園内・地域で養成
していくことが必要。
- 研修のネットワークを築くときに、子供たちの育ちが大事であり、保育を充実させ
たいという必要感が大事。
- 研修し語り合うことで子供観が変容すると保育が変わる。架け橋プログラムの中
でも語り合い小学校教育が変わるとよい。